

1. 調査報告概要表

作成日 平成 19年 9月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1070700396
法人名	有限会社 入ヶ谷福祉
事業所名	グループホーム よろこび
所在地	群馬県館林市入ヶ谷町 98番地 (電 話) 0276-72-8800
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5 コミュン100 1-B
訪問調査日	平成 19 年 8 月 17 日

【情報提供票より】19年7月31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 5 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 12 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 14	

(2)建物概要

建物構造	木造耐火構造 造り
	1 階建ての 1 階 ~ 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	(無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 500 円	昼食 500 円	
	夕食 500 円	おやつ 100 円	
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 85.1 歳	最低 73 歳	最高 96 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	館林厚生病院 多々良診療所 新橋病院 三林岡田歯科
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利用者の共有空間である居間はゆったりとして明るく、表通りに面する部分が全面ガラス張りで見通しがよく、閉塞感を感じられない。また手入れの行き届いた庭園、駐車場から垣間見られる家庭菜園、来客の出入りの姿等々から、入居者はここで生活している事を実感しながら、安心して過ごせるようにとの配慮が見受けられる。職員は入居者の一人ひとりの思い・意向を大切に、張り合いのある日々を過ごすための場面作りを工夫している事が入居者の様子から伺い知る事が出来た。又、常に事業所と地域の関係強化を考えて、地元の人との交流を大切にしている姿勢が感じられる。最近は馴染みの関係も出来はじめており、これを契機に災害時の協力依頼について早急に取り組む予定とのことである。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画の周知はカンファレンスや会議で確認している。 服薬の支援については薬ボックスに一週間分を小分けして、服薬の確認をし誤薬防止に取り組んでいる。職員会議の開催は不定期であるが、カンファレンスは毎月必ず1~2回開催している。研修会参加については積極的に参加するようにしており、その度に報告をしている。ホーム便りの発行は現在も休刊中である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 管理者・職員は自己評価・外部評価の実施の意義や目的は理解しているが、今回の自己評価は管理者と一部職員とで作成している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は定期的に開催しており、会議での話し合いにより、地域の掃除に参加したり、地域の方がボランティアに来てくれるようになり、少しずつではあるが活かされている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 思い出作りのアルバムを作って、来訪時に入居者の写真を見せて日頃の様子をお知らせしながら、家族の苦情・意見・要望など何でも気軽に聞けるような雰囲気作りを工夫している。ホームの苦情相談担当者はいつでも対応する用意が出来ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入しており地域の祭りや清掃などに参加している。ホーム側の行事にも参加を呼びかけ連携を図っている。代表者が地元出身で地元との交流もありホームの畑を耕してくれたりと、推進会議のおかげでボランティアの方が見えられるようになった。

2. 調査報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者のありのままを受け止めながら、利用者も地域の一人としての基本的な認識のもとに地域との交流と健康な生活を送ることを重点とした事業所独自の運営理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は玄関の目に付きやすいところに掲示しており、管理者・職員は理念を共有し、カンファレンスや申し送り時に確認しながら、支援の場において理念にそった対応を常に心掛けている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、地域の活動(祭りや清掃等)にも積極的に参加しており、ホームの行事の時には地域の方に呼びかけている。代表者の家が代々地元で生活していた事もあって、地元の人とも馴染みがあり、ホームの畑を気軽に耕作してくれる等交流が出来る。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義や目的を管理者・職員は理解しており、外部評価の結果を生かして、サービスの向上に取り組んでいる。今回の自己評価は管理者と一部職員で作成した。	○	共用空間の雰囲気作り、服薬支援の方法、定期的なカンファレンスの開催等努力のあとが見られる。介護計画の見直し、ホーム便りの再発行等については再度検討して欲しい。評価は管理者や一部の者のみで策定するのではなく、全職員が取り組む体制作りを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はこれまでに3回開催しており、主に内容はホームの事業報告、介護予防の話、地域との連携等であり、会議の意見を参考にホーム側からも地域の清掃に参加するようになった。会議の内容は議事録にまとめ、職員にも回覧している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	施設長が市の介護認定審査会の一員として審査業務に携わっている関係で、市町村との係わりが出来ており、ホーム運営上の諸問題についても市の担当者と常に連携を持ちながらサービスの向上に取り組んでいる。		
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	思い出作りとして個人用のアルバムを作っており、家族の訪問時にアルバムを見せながら、ホームでの暮らしぶりや健康状態をお知らせしている。来訪の少ない方には電話で近況報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に苦情受付窓口を明記している他、来訪時に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに心がけ、苦情・相談等にはいつでも対応できる準備が出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	出来るだけ職員の異動・退職が無いように配慮しているが、新しい職員が入る場合は利用者にきちんと紹介し、馴染の関係が少しでも早く出来るよう、利用者と接する時間を多くする配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修会にはなるべく多くの職員が受講出来るよう配慮している。研修内容はカンファレンスの場で報告してもらい職員が共有するようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県の地域密着型サービス連絡協議会に加入して、研修会参加・交換研修・情報収集等を積極的に行っている。又地域のグループホームとも交流を持ち、勉強会や情報交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族と面談してホームについて説明をしている。特に在宅からホーム入所希望の方に対しては、体験入所(3日～4日間のデイサービス)により本人が雰囲気に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	支援する側、される側という関係でなく、共に学び、支えあう事を念頭において、職員と利用者は一緒に食事の準備・洗濯・清掃等を行なっている。日頃の生活の中でも利用者から昔の歌や行事などを教えていただく場面等が見られる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の言葉や表情などから利用者の希望・意向の把握に努めると共に、意思疎通の困難な方には家族や関係者から情報を得るようにしている。それらの情報は定期的に開催するカンファレンスにおいて全ての職員が共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の本人・家族の思いや意向を踏まえ、定期的に開催するカンファレンスにおいて職員間の意見交換を行い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヵ月～6ヵ月に1度の見直しであるが、状態の変化により随時関係者と話し合いながら見直しをしている。	○	特に変化が見られない場合でも、見直しの期間をもう少し短縮し、新鮮な目で本人・家族の意向や状況を確認することを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の都合によりかかりつけ医受診の付き添い、緊急時の病院への移送、買い物の同行支援など柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の決まっている方は2名で、基本的には家族が同行するが家族の都合により職員が通院支援をし、家族に報告している。事業所の協力医を利用している方については家族の来訪時や電話等で状況をお知らせしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期の対応について、「医療依存度が高くなり、十分な対応が困難になった場合は転院等の支援をする」ということを、かかりつけ医や家族等関係者の間での話し合いにより、共通した認識として持っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保の徹底について、常に会議等で話し合いを持ち、利用者の誇りを損なわないような言葉かけや対応に配慮している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を心がけ、時間を切った過ごし方はしていない。一人ひとりの状態や希望に沿って、散歩・買い物など柔軟に対応している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑で栽培した野菜と一緒に収穫・調理して食事を楽しみ、後片付けも共にするなど、前向きな気持ちを引き出すような場面作りの工夫が見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には入浴の曜日・時間は決めてあるが、出来るだけ柔軟な対応をしている。特に入浴拒否の強い方については決まりにはとらわれず、本人が希望する時、いつでも入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴・能力・趣味等を考慮し、料理の下ごしらえ・テーブル拭き、洗濯物たたみ等それぞれの経験を発揮できる場面を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者がホームだけで過ごさず、出来るだけ外出の機会を多く作っている。ホーム近くの近藤沼・地元所在の県立美術館・つつじの花の観賞等、入居者の希望に応じて外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者・職員は鍵をかけることの弊害を理解しており、朝礼の終了後(10時30分頃)から夕方までは鍵をかけていない。入居者の状況により必要と思われる場合は、職員等が話し合って一時的に施錠することはある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	館林地区防火対象物連絡協議会に加入しており消防署と連携をとりながら消防訓練をしている。6月にはホーム独自で防火訓練を行い消火器の使い方についても学習している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェックして記録に残し、職員は情報を共有している。食品成分表や栄養ガイドブック等を参考に献立を作成しており、おおまかな摂取栄養を把握している。		
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは明るく、表通りの面全てがガラス張りで見通しが良く、庭園に広がる草花からは季節の移ろいを、台所からは食事の準備の音や匂いが漂ってくる等、居心地良く過ごすための配慮が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家族の写真・テレビ・馴染みの家具等が持ち込まれて、利用者一人ひとりに添った居室作りの配慮があり、落ち付いて過ごす為の工夫が感じられる。		